

順位	氏名（議席）	発言の要旨
8	藤田 哲哉（19）	<p>1. 病病連携について</p> <p>富士市立中央病院では急性期治療を終えると、長期入院患者に対して寝たきりの防止と家庭復帰を目的に、回復期リハビリテーション病院の紹介等の対応について、メディカルソーシャルワーカーを通じて行っている。</p> <p>急性期病院から回復期病院へ正しい引継ぎを行うことで、患者のリハビリ期間も短くなりやすく、医療費も心身もともに負担軽減が期待できる。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 回復期病院では、退院支援計画書を作成しその目的達成に向けリハビリテーション治療を行うが、紹介元である中央病院の期待する目的をどのようにして転院先と共有しているのか伺います。</p> <p>(2) リハビリテーション実施計画書では、中央病院入院中の様子と転院先の評価とでは乖離があると思える伺うことがあります。そこで、日常生活を送るために必要な基本的な動作や能力の指標について、中央病院退院時と回復期病院の入院時の指標の整合性について伺います。</p> <p>(3) また、回復期病院では、実施計画書を用いて患者の容態を説明するようですが、実施計画書についての説明があまりないままサインをするよう促される場面があるようです。中央病院からの転院時に、患者の容態について実施計画書等でチェックすることも患者とその家族の役割であることや、計画書の見方やその目的についても周知しておく必要があると思うのですが、いかがお考えか伺います。</p> <p>(4) 実際に目的を達成し、家庭に戻ることが可能となる患者もいますが、中には目的を達成できないまま、また、入院中に病気を発症し廃用症候群等がさらに進行してしまったまま、退院を余儀なくされるケースもあると伺っております。このようなケースを少しでも減らし、市民の生活の安定を図るためにも、さらなる病病連携を深めるべきと思いますが、いかがお考えか伺います。</p> <p>2. ボランティア用ごみ収集について</p> <p>高齢化が進む中、庭木の手入れについて体調が悪くできなくなってしまったというような場面がこれから多く見られると予想される。地域の支え合い活動においてもこのような依頼が出始めており、ボランティア用としてごみ収集を行っていただいている。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>(1) 枝等の50センチ以下への処理が大変困難であることから、ボランティア用に関しては何らかの緩和措置は検討できないのか伺います。</p> <p>(2) 高齢化に伴い、庭木等の手入れに関して早めの対応が必要であると思うが、そのような啓発や相談窓口についてはどのようにお考えか伺います。</p>